

祝卒業



あこがれ 旅 生きる意味

校長 村上 英治



中学生のころ、西に開いた窓の外を見ながらいつも考えていたことがあった。

「遠くへ行きたい」「旅に出たい」

武田鉄矢は歌う。

「14歳の頃の僕はいつも、冷たいレールに耳を当て、レールの響き聞きながら遙かな旅路を夢見てた。」（「思えば遠くへきたもんだ」）

ローマのコロッセオ（円形闘技場）を見たいという思いは年を重ねるごとに強まっていった。中学生の時に見た学習参考書に掲載されていた一枚の写真になぜか心奪われていた。理由は特になかった。

45歳の夏、ようやくイタリア行きを決意し実行に移した。上空から見えるイタリアは、緑豊かな国に思われた。最初に訪れたのはもちろん憧れの場所であった。「コロッセオが見える、コロッセオが見えた。ついに来た」ただそれだけだった。

西日を浴びて夢想していたあの日から膨大な時間の堆積、30数年の歳月を要したのは事実だ。遠く長い道のりであったように思う。

しかし、その瞬間は何か妙に現実感がなく、まるで映画のワンシーンを見ている錯覚にとらわれた。大きなバスの窓はスクリーンの役割を果たしていた。ゆっくりスクリーンはコロッセオの全景を映し出している。

私は、まばゆいばかりの夏の熱い日差しを受けて、その巨大な建物の前に立った。コロッセオが私に迫ってきている。やっと憧れの地に立っているという実感がわいてきた。

あんなに小さな写真に収まっていたコロッセオが、今度は私を見おろしている。外壁の一部は崩れ落ち、石も略奪され、地下は露出している、往事の姿はない。しかし、私にはとても美しく見えた。この競技場の中で行われたことは凄惨なことではあったが、群衆の巨大なエネルギーを感じ取ることができた。

あこがれを現実のものにできたという喜びと感動。人生は生きるに足るものだと自分を信じさせてくれた。その時私は45歳であったが、遙かな旅路を夢見ていた14歳の少年に戻っていたはずである。

学年主任からのメッセージ

高校3 学年主任 牧野 奈央

3年生の皆さん、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。保護者の皆様には、これまで本校の教育活動にご理解ご協力を賜り、ありがとうございました。学校生活に取り組む生徒たちの姿に私たち教員も元気づけられ、生徒のパワーに負けないようにと過ごしてまいりました。

エレベーターホールで皆さんと「おはよう」・「さようなら」の挨拶を交わす日も、一緒にトイレ掃除をする日も、ピンチヒッターでHRに行くことも、もう終わりですね。こんな何気ないささやかな時間を大切に328人とできるだけ関わっていたい、つながっていたいと思った3年間でした。

4月から、いよいよそれぞれの新たな生活が始まります。高校卒業は人生のひとつの通過点に過ぎないかもしれませんが、高校生活で経験したことや人との出会いは一生の財産です。これからの人生、色々な壁に当たることもあるでしょうし、努力が報われないことだってたくさんあるでしょう。しかし、それでも自分が納得いくまで物事に向き合い、素直な気持ちで挑戦し続けることが大事です。立ち止まることなく、前に進んでいく勇氣を持ち続けてエネルギーに頑張ってください。皆さんの今後の活躍を期待しています。



中等部3 学年主任 岡村昭伸

静岡翔洋高校中等部3年生138名の皆さん並びに保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。皆さんと歩んできたこの3年間を振り返ってみると、初めての5クラス体制での学校生活は、一つ一つが、今までと同じ名前の行事でも、やってみると同じじゃないと言うことの繰り返しだったように思います。そうした変化は、難しい面もあると同時に私たちを進歩させてくれました。どうやったら今までと同じ時間で、それ以上の効果を出す動きができるのかを考えることは、貴重な体験だったといえます。

今日はみなさんに2つの言葉を送ります。一つ目は物理学者アインシュタイン博士の言葉です。Life is like riding a bicycle. To keep your balance you must keep moving. 訳すと「人生とは自転車のようなものだ。倒れないようにするには走らなければならない」ということです。新しい世界でも、走りぬいて欲しいのですが、今年の干支のように猪突猛進ではなく、みなさんが本校で学んだことを活かして、ルールを守り、力強くかつしなやかな走りを見せてくれると信じています。

二つ目はみなさんも知っている、校歌の中にある「礎」です。東海大学やその卒業生は常に先駆けであることを意識し、世界をリードする活躍をしてくれています。華やかとも思える勝利や開発・発見はいずれも一人で短時間ではできないことで、支えてくれた多くの人と時間が「礎」となり、なしえたものです。自分が輝くことと同じくらい、様々なことの「礎」となる志を忘れずに日々を過ごして欲しいと思っています。本当にご卒業おめでとうございます。



サッカー一部男女 県新人戦3位

2月17日(日)草薙総合運動場で、平成30年度静岡県高等学校新人サッカー大会の準決勝が行われました。相手は4連覇を目指す静岡学園高校でした。延長で0-0と健闘しましたが、PK戦(3-5)で惜しくも敗れてしまいました。



2月10日(日)エコパ人工芝グラウンドで、平成30年度静岡県高等学校女子サッカー新人大会の準決勝が行われました。2年ぶりに4強に進出しましたが、常葉大橋高校に0-1で惜敗し、3位となりました。

今年度の主な戦績は、皇后杯全日本女子サッカー選手権静岡県決勝大会優勝、東海女子リーグ2部残留でした。



文化系部活動も活躍中

放送部

2月10日(日)第15回北信越高等学校選抜放送大会・福井大会に静岡県代表として高校2年杉山汐里(安東中出身)が朗読部門に出場しました。その結果、優秀賞を獲得しました(静岡県では一番)。



自然科学部

2018年度「附属高等学校・中等部科学研究成果発表会」が東海大学代々木キャンパスで行われ、自然科学部がオーラルセッションの部に参加しました。附属8校が参加し、お互いの研究を発表し、切磋琢磨することにより研究意欲向上や交流をしました。東海大学附属校ならではの発表会であり、未来を担う研究者がここから誕生することでしょう。



吹奏楽部

2月11日(月)浜西市浜北文化センターで行われた中部日本個人・重奏コンテスト静岡県大会に出場しました。

【個人の部】

テューバ 独奏 高校1年 杉山悠(城山中出身) 金賞 代表
アルトサクソフオン 独奏 高校2年 小池リオ(吉田町立吉田中出身) 金賞

【重奏の部】

クラリネット七重奏 金賞 代表・金管八重奏 金賞
代表に選ばれた「杉山悠」と「クラリネット七重奏」は、3/24岐阜県羽島市で行われる中部日本大会に出場します。



ラグビー部女子

1月29日~2月6日まで、外務省が推進する「対日理解促進プログラム」という青少年交流プログラム「JENESYS2018」に、ラグビー部女子1年生から3年生まで計10人がフィリピンへと派遣されました。ラグビーを通じて相互理解や、お互いの国の魅力、また一人一人が自分の意見、考えを伝えることの重要性等、様々な経験からいろいろな事を学ぶことができたと思います。また、現地の学生とSNSを通じて今も連絡を取り合うなど、自分たちの可能性を広げています。



高2かけはしプロジェクト

2月1日（金）5・6限で高校2年生を対象に「かけはしプロジェクト」が行われました。「かけはしプロジェクト」とは、本校の卒業生（現役大学生や社会人）に来校してもらい、それぞれの学部学科のことや大学生活のこと、学園基礎学力試験に向けての勉強のことなどをお話しして頂く翔洋高校恒例の進路行事です。今回は、19名もの卒業生が来校されました。生徒たちは、自分の進路のために真剣な表情で卒業生の話を聞いていました。『全て自分で考え自己責任である』『工学部、情報学部では微分積分の重要性がわかった』『基礎学への取り組みの大切さがわかった』などと、進路意識の高まりを感じる感想が多く出てきました。



高3 テーブルマナー講座

2月25日（月）、卒業式を間近に控えた高校3年生を対象に卒業記念テーブルマナー教室が開催されました。静岡駅前のクーポール会館を会場に300名余りの生徒たちが、フォークやナイフの使い方を学びながら、洋食に舌鼓を打っていました。社会人としてのマナーを学びながら、楽しく和やかなひと時を過ごした生徒たちでした。



中1 スキー教室

中等部1年生は1月29日～1月31日の3日間、群馬県にある東海大学嬬恋研修センターでスキー教室を行いました。1日目は立っているのが難しいほどの強風と吹雪に見舞われましたが、2日目以降は快晴になり、最高のスキー日和でした。スキー初心者が多く、初めはスキー板の付け方から教えてもらっていましたが、最終日にはゲレンデの頂上から滑る体験も出来ました。大きな怪我もなく、みんなスキーを楽しんでいました。

